

## 第7講 アメリカ近代公教育制度の出現と背景

### 1 19世紀前半の社会的状況

1800—1830年頃 アメリカ国家の太平洋岸への膨張

蒸気機関と機械による国民経済にもたらされた変化

1803年 フランスからルイジアナを買収。ロッキー山脈まで拡張

1819年 スペインからフロリダを買収。領土は建国時の5倍に、人口は3倍に。

1812年 イギリスとの「第二の独立戦争」＝大西洋の海上の経済権の獲得。

第5代大統領、James Monroe 1758-1831 モンロー宣言。

1828年 ジャクソン大統領の誕生 Andrew Jackson 1767-1845

人民の人民による政治には、真に教育が必要であるという認識の浸透

→教育機関→民主主義の発達

### 2 公立学校制度の基礎

#### (1) District School 文化：ローカルな教育文化

1642年マサチューセッツ 義務教育令

1647年マサチューセッツ教育令（タウンに学校設置義務）

1789年マサチューセッツ教育令（学区制度の合法化）ディストリクト・システム

#### (2) その他の多様な初等教育機関

日曜学校 the Sunday-School Movement

幼児学校

The Infant School Societies

慈善学校 Charity School

#### (3) もうひとつの流れ—女性のための高等教育の基盤

ウィラード女史 Mrs. Emma Hart Willard 1787-1870

1821年 トロイ女学院 Troy Female Seminary

ビーチャー女史 Catherine Esther Beecher 1800-1873

1828年 ハートフォード女学院 Hartford Female Seminary

ライアン女史 Mary Lyon 1797-1849

マウント・ホリオーク学院 Mount Holyoke Seminary

### 3 Horace Mann, 1796-1859

公立学校制度の父 the father of American public education

#### (1) 経歴

#### (2) ホーレス・マンの功績

公立学校教育 コモン・スクールに関する啓蒙・展開

#### (3) ホーレス・マンへの批判と位置づけ

コモン・スクール運動、教育改革運動の示すもの

学年制の導入 教科書の標準化など